

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

パワーストーンの誤飲 (No.23 イヤホンのパーツの誤飲による食道異物の類似事例5)

|                  |   |  |         |       |
|------------------|---|--|---------|-------|
| 事 例              | 年齢：6歳2か月  | 性別：女兒  | 体重：23kg | 身長：不明 |
| 傷害の種類            | 誤飲  |  |         |       |
| 原因対象物            | カプセルトイ (通称：ガチャポン) のパワーストーン (最大面約 2.5cm×1.5cm、厚さ約 7mm)   |  |         |       |
| 臨床診断名            | 胃内異物  |  |         |       |
| 医 療 費            | 178,720 円   |  |         |       |
| 発<br>生<br>状<br>況 | 発生場所  | 自宅リビング   |         |       |
|                  | 周囲の人<br>・状況   | 母が近くにいた  |         |       |
|                  | 発生年月<br>日・時刻  | 2017年11月10日 午後9時頃  |         |       |
|                  | 発生時の<br>詳しい様子<br>と経緯  | 発育・発達は正常で特記すべき既往歴がない6歳の女兒。自宅のリビングで仰向けになりテレビを見ながら、カプセルトイのパワーストーンを口の中に入れていたところ、誤って飲み込んでしまった。吐き出そうとしたが吐き出せず、それ以降飲食をするたびに嘔吐を繰り返し、食事や飲水が困難となったため、事故発生から2日後の夜に医療機関を受診した。咽頭違和感や胸痛、腹痛の訴えはなかった。 |         |       |
| 治療経過と予後          | 受診時の腹部単純 X 線写真で胃内に異物陰影を認めた。<br>自然排出を期待して補液のみで経過観察としたが、翌朝に再検した腹部単純 X 線写真、および腹部単純 CT で、異物は依然胃内に停滞していた。誤飲から3日経っても異物が自然排出されないことから、鎮静下に内視鏡を用いて異物を摘出した。内視鏡所見では食道や胃内にびらんや潰瘍は認めなかった。摘出後は、経口摂取を再開しても嘔吐せず、同日に退院とした。 |  |         |       |



## Injury Alert (傷害速報)類似事例

クリスマスオーナメント金具の誤飲による頸部食道潰瘍

(No.23 イヤホンのパーツの誤飲による食道異物の類似事例 6)

|                  |                                    |   |
|------------------|------------------------------------|---|
| 事 例              | 年齢：0歳10か月 性別：男児 体重：9.5kg 身長：77.0cm |   |
| 傷害の種類            | 誤飲                                 |   |
| 原因対象物            | クリスマスオーナメントの金具 (図1)                |   |
| 臨床診断名            | 頸部食道潰瘍                             |   |
| 医 療 費            | 入院費 845,410 円、外来費 18,730 円         |   |
| 発<br>生<br>状<br>況 | 発生場所                               | 自宅の寝室   |
|                  | 周囲の人<br>・状況                        | クリスマスツリー本体は片付けられていたが、片付け時に本児が今回の原因対象物であるオーナメントを気に入ったため、おもちゃとして遊ばせていた。母は掃除中で児から目を離しており、その他の家族は自宅にいなかった。  |
|                  | 発生年月<br>日・時刻                       | 2018年2月X日(日) 時刻不明   |
|                  | 発生時の<br>詳しい様子<br>と経緯               | 定型発達の児。2018年2月X-3日から発熱と気道症状があり、X-2日に医療機関Aを受診した。迅速検査でインフルエンザBが陽性であり、抗ウイルス薬の内服が開始された。X日、母が布団を掃除している時に突然泣き出したが、機嫌はすぐに直った。この時点で、母はクリスマスオーナメントボールの金具がなくなったことに気づいていた(同日に誤飲した可能性があるが、確定的ではない)。その後も発熱が続き、嘔吐や流涎はないものの喘鳴が出現した。経口摂取が困難となったため、X+2日に医療機関Aを再診した。胸部X線写真(図2)・頸部単純CT検査(図3)で、頸部にV字の針金状の部品を認め、異物誤飲の診断で医療機関Bを紹介された。 |

治療経過と予後

医療機関 B に到着後、耳鼻咽喉科医師により喉頭ファイバースコープ下での異物除去を試みたが、V 字状の針金先端部が粘膜に食い込んでいたため牽引不可能であった。安静目的に、鎮静下に気管挿管、人工呼吸管理とした。喉頭展開時、異物は確認できなかった。入院 2 日目、全身麻酔下に消化器内科医師により上部消化管内視鏡を用いて摘出した（図 4）。

食道粘膜に対し、金具の先端が頭側を向いて嵌入しており、針金先端部が停滞していた部位に頸部食道潰瘍を認めた。異物をそのまま頭側に牽引すると頸部血管を含めた内臓を損傷する恐れがあった。内視鏡的に金具を曲げたり、切断したりすることは不可能だった。そのため、食道裂傷のリスクを抱えながら、異物をいったん胃内まで落とし、反転させて食道内を逆行させた。緊急手術の可能性があったため小児外科、耳鼻咽喉科、消化器外科の各医師が手術室で待機した状態で処置が行われた。術後は誤嚥性肺炎を合併し、抗菌薬による治療を要した。その後の経過は順調で、入院 4 日目に抜管、抜管後は喘鳴なく、酸素投与も必要なかった。入院 10 日目の内視鏡検査で潰瘍部の改善を認めた。癒痕狭窄を残すことなく、入院 12 日目に退院した。

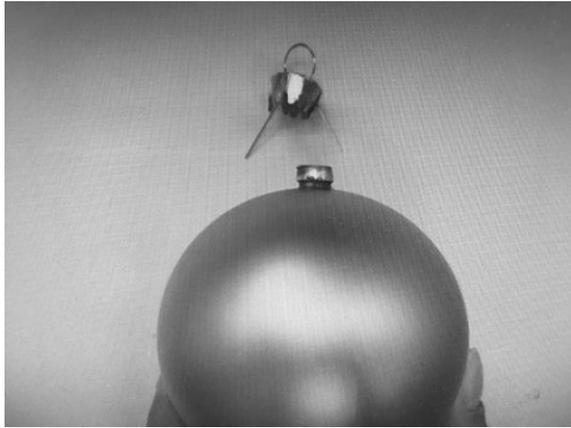
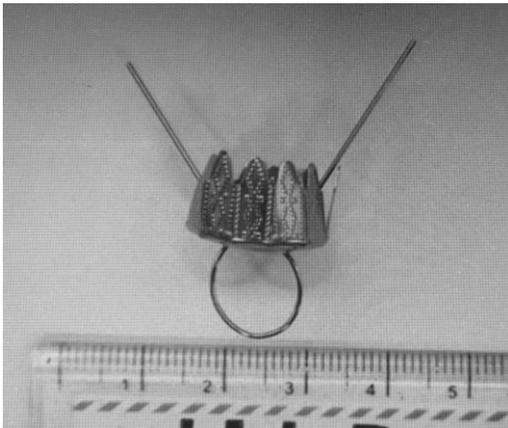


図 1. 摘出したばね状金属部品



図 2. 摘出前の胸部 X 線検査

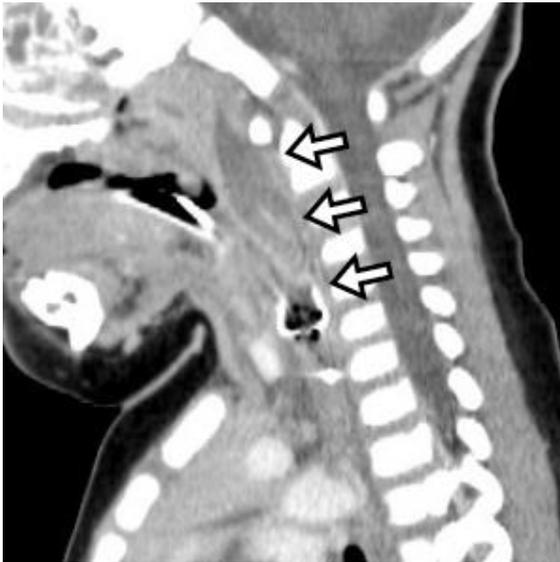
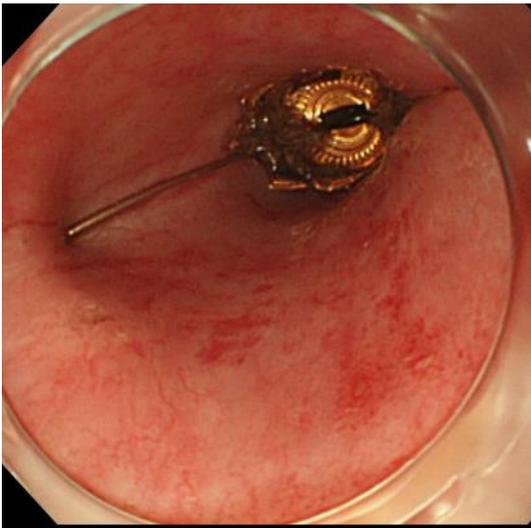


図 3. 頸部単純 CT(矢状断)

頸部に異物を認め、周囲に炎症性変化(矢印)を伴っていた



(a)



(b)

図 4. 上部消化管内視鏡 (a) : 上部食道に針金状の異物を認めた. 先端は粘膜に嵌入しており, 鉗子で把持しても頭側へは移動できなかった. (b) : 異物摘出後. 食道粘膜の 9 時方向に潰瘍(矢印)を認めた.